



1. 格付結果

企業名	富士通株式会社
格付の種類	情報セキュリティ格付
格付 ID コード	10000260214C1910
格付スコープ	九州 DC サービスマネジメントセンター(*) (*)システム運用管理業務 (システム環境構築、運用管理・運用監視等)
格付対象	九州データセンター
想定リスク	情報漏えい
格付符号	AA⁺is (ダブル A プラス)
格付の方向性	ポジティブ
有効期間	2019年10月16日から2020年10月15日まで (交付日から1年間)

●お問い合わせ先 **株式会社アイ・エス・レーティング** 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 1-10-23 第 20ビル 8 階

TEL:03-3273-8830 <http://www.israting.com>

情報セキュリティ格付は、被格付組織等から入手した情報に依拠して形成した当社の意見であり、その正確性、完全性、網羅性等は必ずしも保証されてはいません。格付事由書、格付レポート等は、原則として被格付組織または被格付組織の格付けを要請した者からの依頼に基づき有償で作成されたものであり、被開示者、閲覧者等には参考情報としてご提供されるものです。格付事由書および格付レポート等は、被格付組織の事業やサービス、被格付組織との取引や情報共有等を推奨するものではありません。当社は、情報セキュリティ格付に関するクレーム、訴訟その他の紛争、被格付組織その他の第三者に関して生じうる一切の損害、損失、費用等について責任を負うものではありません。なお、情報セキュリティ格付に関する一切の著作権その他の知的財産権、営業秘密、ノウハウその他の権利・利益は当社に留保され、当社に専属的に帰属するものとします。

Copyright (C) 2019 I.S.Rating All rights reserved.

2. 当該格付符号とした事由

2-1. 総合所見

富士通株式会社(以下富士通)は、IT を活用したビジネスソリューションをグローバルに提供するリーディングプロバイダーであり、通信システム、情報処理システムおよび電子デバイスの製造・販売ならびにこれらに関するサービスの提供を事業内容とする。

グループの理念・指針として制定された「FUJITSU Way」に基づき、全社通じて情報セキュリティガバナンス体制を構築、社内規程を整備・遵守し適正な情報管理・活用を推進することにより情報セキュリティ強化を図っている。アウトソーシングサービスを提供しているデータセンターサービス事業本部(以下、本部)においては、事業の特性上、高い水準の情報セキュリティ対策が要求されることから、情報セキュリティへの取組みを品質向上活動の一環として位置付け、ISO9001、ISO/IEC27001、ISO/IEC20000 の3つのマネジメントシステムを、1つの統合されたマネジメントシステム(IMS: Integrated Management System)として構築しており、その外部認証機関であるJQAでのマネジメントの統合の程度を示すランク付けにて、最高ランクであるプレミアムステージを2014年9月に取得する等、情報セキュリティの強化を積極的に推進している。

九州データセンターは、九州ウォーターフロント開発区/シーサイドもち(百道)に2004年1月に設立されたデータセンターであり、高度な運用ノウハウに基づいたサービスを提供している。

同センターにおける重要情報資産としては、運用を受託している基幹システム、サーバ類およびデータ保存媒体に格納されている顧客システムの諸情報、ならびにこれらのシステムから出力される各種帳票等が主なものである。

情報セキュリティへの取組みは、富士通グループ共通・全社共通の取組みに加え、本部指導のもとで同センターにおけるマネジメントシステムを構築し運用を行っているほか、ISO 審査や委託元による立ち入り検査の受審、相互監査等を通じて物理的セキュリティを始めとした各種対策が進められており、積極的に情報セキュリティ対策の強化を実施している。2010年10月には、情報セキュリティ格付を取得し、本年度は9回目の更新審査を実施した。

マネジメント成熟度の観点から見れば、本部を統制するマネジメントレビュー会議をはじめ、現場レベルの品質向上の底上げを目的とした「Qfinity 推進会議」という専門組織が設けられるなど、本部全体で情報セキュリティの取組みを推進する体制が構築されている。また、それに加

●お問い合わせ先 **株式会社アイ・エス・レーティング** 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-10-23 第20ビル8階

TEL:03-3273-8830 <http://www.israting.com>

情報セキュリティ格付は、被格付組織等から入手した情報に依拠して形成した当社の意見であり、その正確性、完全性、網羅性等は必ずしも保証されていません。格付事由書、格付レポート等は、原則として被格付組織または被格付組織の格付けを要請した者からの依頼に基づき有償で作成されたものであり、被開示者、閲覧者等には参考情報としてご提供されるものです。格付事由書および格付レポート等は、被格付組織の事業やサービス、被格付組織との取引や情報共有等を推奨するものではありません。当社は、情報セキュリティ格付に関するクレーム、訴訟その他の紛争、被格付組織その他の第三者に関して生じうる一切の損害、損失、費用等について責任を負うものではありません。なお、情報セキュリティ格付に関する一切の著作権その他の知的財産権、営業秘密、ノウハウその他の権利・利益は当社に留保され、当社に専属的に帰属するものとします。

Copyright (C) 2019 I.S.Rating All rights reserved.

え、地域サービスマネジメント事業部会を週に1回開催するなど、他のデータセンターとの連携により、情報セキュリティの取り組みの強化を図っている。内部監査、外部監査での改善指摘については、自己評価を行い、「セキュリティ改善（強化計画書）」で計画的に改善活動が図られており、PDCA サイクルが確立していると言える。また、従業員一人一人の情報セキュリティに関する意識づけを「情報セキュリティポケットブック」の配布や「六箇条の御誓文」を復唱するなどの活動、オペレータ業務におけるスキルチェック表を用いた評価、などを通して、高いレベルで管理されていることを確認した。

セキュリティ対策の強度の観点から見れば、データセンター内のセキュリティレベルに応じた認証方式による入退管理、マシンルーム内では死角を考慮した数多くの監視カメラの設置、データ保存媒体等の持出は金属探知機やDR タグによる持出防止策などが実装されている。また、入退管理におけるアラート情報から監視カメラの映像をチェックしたり、抜き打ちでの持ち物チェックの回数を増やすなど、情報漏えいのリスクを軽減させるために、更に強化されていることを確認した。

総じて、マネジメント成熟度では、新たな脅威に迅速に対応しており、高水準の管理状態を維持・発展させている。また、セキュリティ対策強度では、悪意ある外部者・内部者に対する管理策が極めて高いレベルで講じられていると言える。

以上